



「主の召しと派遣」

出エジプト記三：1～14

牧師 安藤 脩

早80歳。もうこのままで自分の人生は終わって行く、それで良いとお思いでしようか。モーセもエジプトを出奔し、ミデアンの地で80歳になっていました。

モーセはある日、羊の群れを飼い、神の山ホレブに來ました。(：1) 「そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に、主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。」(：2) という、不思議な光景を見ました。これが主なる神のモーセへの顕現です。聖なる神の前に、彼は畏怖の念をもって立たされました。そして「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神…今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」(：6、

10)との使命を与えられ、召を受けたのです。到底なし得る使命ではありません。若く、王子として力のあつた時でさえ不可能だった。ましてや今、エジプトの逃亡者であり、年老いた、ただの羊飼いであります。モーセは主に言いました。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」(：11)と。

これこそが、神の待たれた「時」だったのです。神はこのような「何者でもない者」と心砕かれた者を用いるのです。「私は年老いたから、何も出来ません」と言うことは止めましょう。救いの業は人間が行なうことではありません。神のなさる業です。神がモーセを用いられたように、ことの大小は別にして、あなたを神は今もお用いになれます。主は私たちが「自分がやった」と傲慢にならないよう、心砕かれ「私は何者でしょう」と言う時を待っておられるのです。

2016年秋号

日本キリスト教団
横浜岡村教会

〒235-0021

横浜市磯子区

岡村 4-25-39

TEL.045(751)3917

牧師

安藤 脩

人生が軌道に乗り、老齢になって、溢れるほどの喜びはなくても、「平穩に、このままでもう良い」と思う心は誰にでも起こるでしょう。しかし、全ての源である創造主、このお方が救いを与えんとして、今も働いておられるのです。主はイスラエルの民を「わたしの民」(：7)と言われ、「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」(：12)と遣わす意味をも打ち明けられました。主なる神は、罪を負い、滅び行く人間を今も「わが民」と呼ばれるのです。そして私たちが用い、信じる者を「自身の民となして、エデンの園での「良しとされた交わり」を回復しよう」とされておられるのです。

召命は必ずしも本人にとって喜ばしく、楽しいと感じられることではないかもしれませんが、しかし、主と共に歩み、主の良きおとずれを伝えることは、生甲斐のあることです。主イエス様は迫害を受けても「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」(ヨハネ5：17)と言われました。この御方の召しに応え、共に働くことが真の喜びを味わう道なのです。

証し

受洗の恵み

石川 愛



私は2016年3月27日のイースターの日に洗礼を受けました。以前、「わかえだ通信」にも書いたと

おり、洗礼を受けようと思ったきっかけは、昨年5月に結婚に向けて動き出したときでした。もともと結婚が決まる前から、結婚することになったらクリスチャンである夫・石川新と共に信仰の道を歩んでいきたいと思っていましたし、それが自然なことだと考えていました。

それから夫に連れられ、横浜岡村教会へ少しずつ通いながら、結婚の準備をしつつ、心も神様に向ける準備をしていました。

しかし正直、結婚に向かって動き出したばかりの頃は、まだ心は不安の方が大きくて、教会にもあまり通わず、信仰の浅いこんな自分が洗礼を受けて良いものなのかという気持ちがありました。

高校生の頃、洗礼を受けようか悩んだときがありました。心が弱く、その時も

同じような気持ちになり、ついに洗礼を受けることはありませんでした。

学生の頃は教会に行ったり、ミッションスクールに通っていたりと、信仰の道を歩むきっかけはきつといくつもあったのにも関わらず、私の心はかたくなになっていました。

私は、神様の事について詳しく知っていないわけでもありませんでしたし、聖書を毎日読んで、神様に心を向けることもほとんどありませんでした。そんな私がクリスチャンだなんて、自信が持てず、とても胸を張れるものではないと思っていたからです。

しかし、受洗に向けて行われた安藤牧師との勉強会の中で、私は少しずつ変えられるようになりました。洗礼を受けることによつて新しく生まれ変われることや、そこからクリスチャン生活の一步が始まることを知りました。

そしていよいよ洗礼を受ける日、もう変に緊張することはありませんでした。

このクリスチャン人口の少ない日本において、他の人よりも近くに神様という存在を感じていたのにも関わらず、知ら

ないふりをして、罪を重ねていた私を、神様は見捨てることなく声をかけ続けてくださったのだと嬉しくなりました。そして、その声にやっと思えられたという気持ちがあったからです。

こんな私にでも、クリスチャンになるチャンスを与えて、心を開いてくださったこと、本当に感謝しています。

そして、これから歩んでいく道には、たくさんのお試しが待ち受けていることだと思いません。でも、私を受洗の道に導かれた神様は、いつも私たちを強め、守り、支えて、自分の力だけでは成し得ない出来事や結果に導いてくださいます。

「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」(ルカによる福音書七章50節)

それを信じてこれからもクリスチャン生活が守られること、そして早く他の人にも神様の救いが訪れることを願っています。



証し

母の信仰
次世代に引き継がれた献身

シティビジョン・

グローリーチャーチ

(CVGC)

副牧師 増田篤子

今年1月6日、母(佐伯礼子)は87歳で主のもとに凱旋しました。19歳で救われ、横浜岡村教会の創設期から36年、CVGCの開拓期から32年間主に仕えました。晩年は認知症となりホームで生活しました。お祈り訪問下さった方々には心より感謝しております。

母は幼い頃から父親の酒乱と病気のため、苦勞の多い家庭に育ちましたが、明るく快活な子供に育っていききました。

時代は進み、日本は敗戦を迎えました。父親の精神病の悪化と、戦後の混乱の中、性格も顔立ちも父親に似ていた母は「自分もいつか父の様に精神を病んで廃人となってしまうのではないか」と不安を募らせていきました。「死にのみあこがれる毎日だった」と述懐しています。苦勞する母親を残して死ぬこともできず、読書に没頭する中、ドフトエフスキー、

トルストイなどロシア文学の中に「神はいるのか」とかすかな希望を見出すようになります。思い詰めていた彼女を心配した兄が、一人のクリスチャンを紹介してくれました。導かれるまま初めて行った横浜ミッション診療所(ドイツ人のラング先生と、倉持先生が始めた医療伝道)の祈禱会で、「自分の求めていたものはこれだ!!」と確信し、その晩見事に救われました。帰り道「空の星の美しかったこと!!」。まさに失望から希望、闇から光に移されたのでした。19歳の時でした。洗礼を受け、翌年には横浜菊名教会でのバイブルスクールに参加し、「自己の救いとどまっていはいけない」と主に示されると、先輩クリスチャン達の助けを得て、自宅での家庭集会和子供会、職場での聖書輪読会を始めます。町内会館を借りて日曜学校を行うと、150名の子供たちが参加するようになりました。職場の聖書輪読会も10名前後となり、梅沢幸太郎牧師先生が招聘され横浜岡村教会の前身・根岸橋教会が誕生しました。母は、よく「お言葉だから」と言っていました。聖書を読み、祈り、主が

語られたことに従う、それが母の信仰の姿勢でした。当時の母の日記を見ると、主に示された人々に手紙を書き、訪問し、熱心に伝道している様子が窺われます。主の言葉に従うと、あれよあれよという間に教会がたてられていったそうです。献身を願いましたが、家庭の状況からかなわず、やがて次女(私)が献身する事となり、娘夫婦の教会開拓を助けるため、教会を転籍させて頂くこととなりました。

CVGCでの母は、日曜学校、公園伝道、区域長など熱心に伝道し、多くの魂が救われました。母の長年の祈りの課題だった夫(正忠)も、この頃聖霊に捕らえられ、泣いて悔い改め、献身的なクリスチャンとなりました。

私達娘息子たちは、神様から母に与えられた篤い信仰と祈り、救霊の情熱を受け継ぎました。そして今孫たちにもバトンが渡され、3人の孫は牧師としての道を歩み始めています。

すべての栄光を主に返し致します。

(横浜岡村教会)

第67回創立記念礼拝での証し)

神様の奇跡に生かされて

堀内 強美



まず最初にお話ししたい事は、この場所に教会を建ちあげるまで色々困難な事

があり、安藤先生は大変苦労なさったということ。私は地元の人間として先生から協力を頼まれた時どういう分けか二つ返事でハイと答えてしまいました。それが不思議でなりませんでした。その後、聖書や本などを通しキリストは誰かを介して物事を成し遂げる方であり、牧師が私を選ばれたのはその事であったのかと納得できました。もう一つ思わぬ事が助けになりました。それは何年前かに、私は世界の食肉加工コンテストに挑戦しまして、金賞を受賞したのですが、地主さん（建築候補地の）受賞の事を知って「貴方なら信用できます。貴方になら売りますよ。」と三回目の交渉でようやく土地を購入できたのです。外国では日本の技術もここまで来たのかと称賛されました（地元ではさほど称賛されませんでした）。でもこの事が教会の土地

購入の時に影響した事は、本当に不思議であり、そして奇跡であった思い、この土地が神様に選ばれた土地だったと思わされました。その後も教会堂の建築、その他の事でも色々な事が不思議と解決していき、本当に奇跡の連続でした。

私自身もその間、大腸癌になり、かなり酷い状態で緊急に手術をする必要がありました。主治医の計らいで優秀な医師が紹介され、すぐ手術をする事が出来ました。困難な状況が次々に解決し、どういふ神様が私を助けてくれたのか、死ぬまでに絶対見つけろぞ、と思いましたが、そんな時、牧師から「貴方は神に選ばれた人なのだから洗礼を受けなさい」と言われ、またまた素直に「ハイ」と答えてしまいました。それは、未信者であるにもかかわらず教会で結婚式を挙げた時、司式をしてくださった牧師が「機会があつたら洗礼を受けて下さい」と言われた事が、ずっと頭から離れないのです。また、教会建設に関わる事や自分が受けた奇跡の数々が、素直な気持ちの表れになったのだと思います。

その後大きな交通事故に遭い頸椎損傷

で神経も麻痺、身動きが取れない状態になってしまいました。処がそこにまた奇跡が起こりました。大腸を手術してくれた医師が高校の同級生の名医を紹介してくれたのです。すぐ診察を受けた処、手術すれば治ると言われました。でも、予約が二百名も待っている、直ぐ手術するのはむずかしい状況でした。処がある日、病院から連絡があり、三日後に来て下さいという事で、こうして八時間の手術を無事終えたことは、本当に奇跡としか言いようがありません。

こうした中で教会の建設に関わらせて頂き、協力しようと思ったもう一つの理由があつたのです。それは牧師が話された「教会を災害時の避難場所にしたい」という考えと、「将来は障害を持つ人たちの作業をする場所を造りたい」という思いにすごく感動したのです。これは絶対やらなければならぬと思えました。

これまでの人生で、死から生かされた奇跡的な出来事が七度程あります。一度目は、終戦直前に空襲に遭い、生まれたばかりの私が、母に抱かれ防空壕へ行く途中、機銃砲が飛んできました。とっさ

に母は私の上に覆いかぶさり、弾は一メートル先にささって助かったのです。二度目は宮崎は台風が来るとすぐ洪水になるのですが、その時、私が行方不明になり探しても見つからず、もう死んだと諦めたそうです。しかし、私が浮いてきて急いで引き上げ、抱いて高台に連れて行った所に綿があつて、それにくるんで叩いていたら顔色が戻り赤くなってきて助かったのです。三度目は、小学校の頃、友達と遊んでいた時、宝酒造のマンホールに落ちてしまい溺れかかったのですが、僅かに出ていた手を先輩が梯子にしがみつ き掴んで引き上げてくれて助かったのです。走って行って母親にしがみついたことを憶えています。親のありがたさを感じましたね。今私は親への感謝の気持ちを表すように小中学校で生徒さんに話をさせて貰っています。そしてなにより人の喜ぶことをする大切さを伝えていきます。ですから自らも率先して嫌な仕事を するようにしています。以前はそんな人間ではなかったのですが、安藤先生に導かれて少しずつ自分が変わってきているんだなと感じています。今まで出来な



す。大変な怪我でしたが血管に刺さった角度が良かったため、大手術でしたが成功し助かったのです。五度目は、前にも話した頸椎損傷の事故の時も、ブレーキが踏めずガソリンスタンドに突っ込んでしまい、燃料タンクにぶつかる寸前、一つの看板があったお陰で車の火災にならずにすんだのです。もう奇跡としか言いようがありません。

(6度目。7度目は前述の大腸がん治療、頸椎損傷の手術)

今まで多くの方々の助けを頂き沢山の奇跡を経験しました。この感謝の思いを、食と健康の為に力を注ぎたいと思い、料理窯を開発し、揚げない豚カツを作る事に成功したのです。

入院中、病院の栄養士の話を聞きカロリーやアレルギー等の問題で、食べたい物が食べれない人の事を知りました。体に良い豚カツを作りたいという思いに突

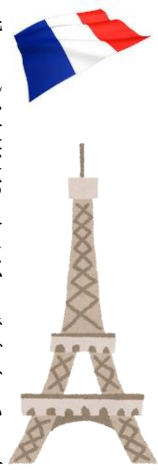
つたことが全部出る様になつています四度目は足の付け根を包丁で刺してしまったのです。大変な怪我でしたが血管に刺さった角度が良かったため、大手術でしたが成功し助かったのです。五度目は、前にも話した頸椎損傷の事故の時も、ブレーキが踏めずガソリンスタンドに突っ込んでしまい、燃料タンクにぶつかる寸前、一つの看板があったお陰で車の火災にならずにすんだのです。もう奇跡としか言いようがありません。

まだまだ地域での横浜岡村教会の認識は低いですが、十字架の光も、鐘の音も問題にされる事なく、寧ろ鐘の音は徐々に岡村のシンボルになりつつある様です。教会の方々が努力して色々されているのが認められてきて、少しずつ教会の存在が浸透してきているように感じています。そして今までの全ての事は、神様のご計画であったと強く感じています。

(アシラム・ファミリーアワーでの証し)

パリからの便り

中村 梓



皆さん、大変お久しぶりでございます。お元気ででしょうか？私も日本を離れ、パリに留学してから2年が経とうとしています。私はすこぶる元気です。

さて、7月はパリで久しぶりに、ジャパン・エキスポの為来られていた善枝先生（JCの頃の呼び方が残っているのです）とお会いできました。何というお導き！普段住んでいると観光なんてしませんから、善枝先生を案内して、改めてパリを感じる事が出来ました。

個人的な留学体験としては素晴らしいことが沢山あります。やはり海外で生活する事は、自国とは違う価値観に、日々発見ばかりです。政治や宗教、民族、もちろん外から見た日本についても考えさせられる事がよくあります。最近のヨーロッパは問題が山積みです。皆さんご存じのように去年11月にパリでテロがあり、現在も非常事態宣言の中にあります。

日本では報道されないような小さな事件を含めれば、かなりの件数のテロがあります。その中で、ヨーロッパの中でも本音も建前も言わない馬鹿正直なフランスが矢面になるのだと思われれます。

去年テロが起こった時、日常生活が一変しました。人々は疑心暗鬼になり、移民やイスラム教徒に対する姿勢が変わりました。その時ふと思いついた聖書の箇所があります。それはルカによる福音書10章27節にある「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。又、隣人を自分のように愛しなさい」でした。

テロの後、久しぶりに日本語の聖書を開き（こちらではフランス語を使っています）この箇所を見たとき、まさに今現在このやり取りを体現しているように感じました。本当に隣人を愛する事が出来るのでしょうか。日本では読

んだだけだった言葉が、突然現実感を持って



梓さん*シャンゼリゼ通りのカフェにて

体の中に入ってくる感覚でした。また、37節の「その人を助けた人です」と言う

律法の専門家の答えは「サマリア人です」と言い切る事ができない、まさしく私達そのもののようなものです。私には、神様が人間にお与えになった永遠の課題のように思われます。いつの日か本当に平和になってほしいと心からお祈り致します。



パリのホテルで。善枝先生と一緒に

横浜岡村教会会員の中村梓さんは、現在パリに作曲の勉強のため留学中です。

●安藤華舟・パリでの

ジャパン・エキスポに参加

ブースでの活動 沢山の絵を描きました。



モンサンミッシェルにも行ってきました。





JC夏季学校

テーマ

「神様にしたがつたヨナ」



8月6日〜7日、教会にてJC夏季学校が行なわれました。今年はずいぶん21名の参加で、JCスタッフだけですべてのプログラムがこなせるのだろうかとい心配でしたが、JCの保護者や教会の方々に支えられて、楽しく行いう事が出来、本当に感謝でした。今年「神様にしたがつたヨナ」と題してヨナ書からの学びをしました。マグネットシアターでお話しをしてもらったあと、3つのグループに分かれて、ヨナさんの姿を通して神様のメッセージを学びました。



5〜6年
くじらグループ



1〜2年
めだかグループ



一番人気の
花火



3〜4年
まぐろグループ

午後からは、楽しい制作の時間で綿棒を使った不思議な絵を描きました。ブーメランを作って、みなで飛ばして遊びました。カレーを頂いた後は近くの銭湯へ。銭湯へ初めて入る子が何人かいましたよ。夜は映画を見て、花火をしました。夜、なかなか寝られない子もいましたが、お母さんから離れて、子ども達にとっては貴重な体験の時でした。



みんな揃って*制作のブーメランを持って



楽しい制作の時間



ブーメラン



おもしろい絵がかけたよ

みんなでカレー作り





JCの窓 (ジュニアチャーチ)

楽しかった

夏季学校

石川 新

教会では、8月6日、

7日にJCの夏季学校が

行われました。テーマはヨナ書で「神様に従ったヨナ」です。

子どもたちが、学びの中で、どんなことが心に残ったのか、楽しかった事は何だったか、最終日に書いてもらいました。聖書の学びでは、ヨナが感情に流され、神様からの言葉通りに行動できない場面を、自分の中のわがままな部分と重ねて

よく考えていました。そして神様が全ての人を愛しているからこそ、ニネベの人々を助けようとしたこともたくさん書いてありました。子どもたちの表現に「神様は人間を愛している」といった言葉が多くみられたことが、私自身とても嬉しかったです。

そのほかのプログラムでは、どれも楽しかったようですが、1位は断トツの花火でした。2位はカレー作り、3位は銭湯に行ったことでした。

この貴重な体験を通して、子供たちが神様に愛され、進むべき道を示されていることに感謝できるようになれば幸いです。

9~11月 行事予定

9月

- 11日 敬老祝福式・祝会
- 13日 三教会交流委員会 (清水ヶ丘)
- 16日 地区婦人委員会 (会場教会)
- 16日 横浜英和学院と近隣教会の懇談会
- 16日 韓日合同礼拝 (在日大韓基督教会)
- 18日 大分めぐみ教会礼拝 (安藤師)
- 18~19日 九州アシュラム (安藤師)
- 19~21日 関東アシュラム
(山崎製パン箱根山荘)

10月

- 2日 世界聖餐日
- 19日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 23日 秋の特別伝道集会(姫井雅夫牧師)
- 29日 平野耕太郎兄・森田智美姉結婚式

11月

- 6日 召天者記念礼拝・愛餐会
墓前礼拝 (上大岡・教会墓地)
- 8日 三教会交流委員会 (横浜菊名)
- 13日 子ども祝福式(JC・一般合同礼拝)
- 20日 収穫感謝日 (教会全体清掃)
- 27日 待降節第1主日礼拝
- 27日 クリスマスツリー一点灯式

(毎月第1主日 聖餐式、役員会)

(毎月第4主日 各会の定例会)

集案案内

◎敬老お祝い会

9月11日(日) 礼拝後ホールにて

◎秋の特別集会

10月23日(日) AM10:30

テーマ「神からの恵み」

講師・姫井雅夫師(赤坂教会牧師)

お誘い合わせておいで下さい。

◎召天者記念礼拝

11月6日(日) AM10:30

礼拝後愛餐会

その後、墓地へ参ります。

編集後記

この秋号の編集作業中は、4年に一度のオリンピックが開催され、普段はほとんど見ない競技も、にわかファンの一人として応援に参加させていただきました。そしていよいよ4年後は東京五輪。本当の意味での平和の祭典を期待したいものです。混沌とした暗い世界情勢が、少しでも改善の方向へ向かうことを心から祈り願うばかりです。(H・S)

